



## 災害時や医療など多方面で活用 「いわて情報ハイウェイ」開通

県が、全県規模の公共情報ネットワークとして整備してきた「いわて情報ハイウェイ」の開通式が12月12日に、県庁で行われた。増田知事が接続ボタンを押し、各地方振興局と結んだテレビ会議で「地域づくりの有力な武器になるが、情報化は手段にすぎない。肝心なのは、一人ひとりの構想力、実行力。有意義に利用してほしい」と要望した。利用分野は、行政、防災、医療保健福祉、教育、県民情報の5つのネットワークで、多方面での活用が、期待されている。



## 芸術文化の殿堂「県立美術館」 10月の開館に向けて竣工

盛岡市本宮に建設が進められていた県立美術館の建物が完成し、12月14日に竣工式が行われた。おおらかな曲線を持つシンプルな外観、外光を採り入れたゆったりとしたグランド・ギャラリーが特徴の施設は、鉄筋鉄骨コンクリート造り2階建て、延べ床面積1万3千平方メートルで、総事業費は約107億円。本県の芸術文化の殿堂は、今年10月に開館の予定。本県出身の富鉄五郎、松本竣介、舟越保武の3氏を中心に、郷土ゆかりの作家、作品を幅広く紹介する。



## 「いきいき中山間賞」交付式 地域活性化の模範8団体を表彰

県の「いきいき中山間賞」の交付式が12月14日、市町村や農協、農業改良普及センターの担当者など関係者約200人が出席して盛岡市内のホテルで開かれた。表彰されたのは、中山間の地理的に不利な条件を克服し、地域活性化を図っている栗石町の橋場地区活性化協議会など8団体。千葉副知事は、「皆さんは、特産品開発や都市住民との交流などを通じ、他地域の模範となるような活動を続けてきた」とたたえた。その後、受賞団体による事例発表が行われた。



## 県産好適米「吟ぎんが」使い 増田知事が新酒仕込みを体験

県のオリジナル酒造好適米「吟ぎんが」を使った吟醸酒の新酒仕込みが12月25日、盛岡市の酒造メーカーで行われ、増田知事も南部杜氏の指導を受けながら作業を体験した。この日仕込まれた新酒は、発酵成熟して1月末には搾られ、芳醇な香りとなめらかな味の吟醸酒に生まれ変わる。増田知事は、「もっとPRして全国に定着させたい」と精を出していた。吟ぎんがの吟醸酒仕込みは、県内酒造メーカー25社が予定し、一升瓶換算で約22万本が見込まれる。